

行政、企業に聞く 市内就職に必要なこと



登米市役所産業経済部新産業対策室
室長 **伊藤秀樹**さん

これまで展開してきた事業を より充実させ若者定住目指す

これまで、若い年代の雇用の確保に向けて、企業誘致など各種施策を展開してきましたが、求人と求職のミスマッチなど、なかなかその状況は改善できていませんでした。

現在、このような現状を打破するために「登米市商工観光振興計画」の策定に向けて準備しているところです。この中で企業誘致については、これまでの自動車関連産業を基盤に、製造業だけではない、新たな分野の企業の誘致を視野に入れています。また、誘致する団地については、長沼第2工業団地と登米インターチェンジ付近への整備を進めます。求人と求職のミスマッチの解消に

向けては、地元高校卒業者だけでなく、県内外の大学へ進学した学生やU・J・Iターン者をターゲットに人材確保支援を展開。若者の定住化と企業を支援していくことを予定しています。

これまで市内企業約30社の参加で実施してきた企業ガイダンスも、より現状にあった形のものに充実させていくことを考えています。

雇用に関連した条件整備は、若者の定住化に向けた施策の一部です。住環境や子育て支援、教育分野など、市組織の垣根を越えて総合的な施策を展開していき、若者の定住化を図っていきます。

企業、行政が一体となった 中途採用者の受け入れ体制

これまで、LED応用製品などの電子部品製造を主としてきましたが、新たに自動車用ランプ製造を追加。この新事業追加をきっかけに、工場を中田町宝江から、迫町北方へ移転しました。

社員の採用は、リーマンショック後、年に1人程度でしたが、本年は5人採用し、全員が市内在住者です。今後も、同程度の人数を毎年採用していきたいと考えています。

中途採用については、昨年からは実施しています。新たな事業を追加したことにより、生産ラインの工程設計、設備製作、設備保全など生産技術分野の技術者不足により、即戦力

となる技術職が必要となったからです。中途採用も、計画的な採用を考え、できれば市内在住、出身者にきてもらいたいと考えています。現在募集は、ハローワークからしか発信していませんが、より優秀な人材と登米市出身者に来てもらえるよう、募集の間口を広げたいと考えており、Uターン希望者などの受け入れも視野に入れています。

東京などの大都市圏で採用説明会をできればよいのですが、単独での開催は厳しい状況です。そこで、市や県など行政と、市内企業の合同開催にすれば、それぞれにメリットがあるものになると考えています。



株式会社スタンレー宮城製作所管理部
部門長 **山内洋人**さん

「今どきの若者は」
昔から、大人が、若い世代に物足りなさを感じたときという言葉だ。決して悪い言葉ではない。期待しているからこそその一言だ。
ゆとり、さとり世代と呼ばれる若者世代と親世代の一番の違いは、デジタル世代とアナログ世代の違い。コミュニケーションの手法や情報発信の仕方に大きな違いがある。豊かさを求めて、バリバリ働くことが美徳だった親世代に対し、豊かな時代に生まれた若者たちの多くはハンゲリーを美徳としな。どちらかと言えば、人の役に立ったり、誰かに必要とされたりすることに喜びを感じ、「ありがとう」の一言を大きな活力としている。デジタル世代だからこそ、アナログな感謝の気持ち

ちが琴線を刺激するのだろうか。
「ケータイはコミュニケーションツール」そんな若者世代のライフスタイルを「みとめ」「うけとめ」ることが大事だ。ゲームも、ラインやツイッターなどのソーシャルネットワークサービスも、相手がいてこそ成り立つもの。若い世代は、人とのつながりを求めている。
取材を通して、若者世代の考えや生き方を知ることができた。共通していたことは郷土愛。地元においても、よそで暮らしても、彼らの心の中には、いつだって古里がある。地元への定着率や就職率を上げることは地域発展には欠かせない。だが、地方の人間にとって「都会への憧れ」は、シンドロームのようなもの。止めようとしても止まるものではない。ならば、「ひきとめ」ず、どんだん都会でスキルアップしてもらおう。そして、一回りも二回りも大きくなって戻ってきてもらおう。外から古里を見つめることで、あらためてその価値や魅力に気付くことも少なくないはず。
魅力ある登米市の職を学ぶ。市外にいても地元の情報を手に入れられる。仕事はもちろん、結婚、生活などあらゆる角度から登米ライフをサポートするシステムがTターンだ。働く場所ではなく「生きる場所」としてU・J・Iターン者を応援する。
若い世代の力は、古里の宝だ。地域、企業、行政が一体となって、Tターンを実現しよう。登米ならきつと大丈夫！

Tターンの ススメ

みとめる、もとめる、うけとめる
地域、企業、行政が一体となった
受け皿づくりを



佐々木華奈さん
仙台市在住
(迫町鉄砲丁出身)

ソフトバンク株式会社に勤務

2011年に佐沼高校を卒業後、県内の大学に進学し、今年4月に入社しました。技術系の部署に配属され、携帯電話基地局の電波測定の積算などを担当しています。入社前、販売促進部門を希望していた、そちらの勉強をし準備していたので、配属先を聞いて驚きました。

就活の時は「ケータイ」をフルに活用

ケータイで就活

していました。志望する会社を調べるにも、ケータイで検索。検索ワードにヒットしない場合、自分の候補から外します。これは私だけではなく、大学生の就活の当たり前です。

親からは「いずれは地元に戻りたい」と言われますが、まずは今の会社でしっかり仕事を頑張っていきます。

登米市出身 若者に聞く

都市部で 仕事を

都内に登米の情報を

県内の大学を卒業後、2014年に上京し、不動産関連の会社に入社しました。その会社には1年在籍退職、現在は精肉を配送する物流会社で、在庫管理などを担当しています。こちらは家賃が高いので、地元と大学時代の友人と一軒家を借りて共同生活しています。

私の家では、祖父と父が会社を営んで

関東総業株式会社に勤務

おり、近い将来Uターンする予定です。家業を継ぐ前に、違う世間や職業を体験したかったので、上京しました。

共に暮らす友人も、地元に戻りたいと言っていますが、東京にいと登米市の就職情報はなかなか入ってきません。常に情報が入る環境になれば、Uターンしやすいと思います。



野家魁さん
東京都在住
(中田町本町畑中出身)